

## 平成30年度シート

分担金・ 拠出金名	アジア欧州財団 (ASEF) 拠出金 (任意拠出金)	種別	任意拠出金	30年度 予算額	1,708千円	総合評価	B
拠出先 国際機関名	アジア欧州財団 (ASEF)						
国際機関等 の概要及び 成果目標	<p>(1) 当該機関の設立経緯等・目的：1996年に開催された第1回アジア欧州会合 (ASEM) 首脳会合において、アジア・欧州の更なる相互理解を促進するための常設機関を設置することに合意。翌年2月、シンガポールにアジア欧州財団 (Asia-Europe Foundation, ASEF) が設立された。</p> <p>(2) 拠出の概要及び成果目標：任意拠出金は、ASEF がアジア・欧州の相互理解及び連結性を高めるための事業を実施し、ひいては、日本の施策への理解を高めることにつながる事業にイヤマークするもの。成果目標は、当該イヤマーク事業の報告書等において日本が重視する政策・価値観が盛り込まれ、参加国間で認識が共有され、しかるべく広報されること。</p>						
1 専門分野 における活 動の成果・影 響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ASEF は、1996年に開催された第1回 ASEM 首脳会合において、アジア・欧州の更なる相互理解を促進するための常設機関として設立され、知的交流、文化交流及び人物交流事業を通じ、両地域間の連結性の強化に貢献している。</li> <li>2017年に日本が任意拠出金でイヤマークした事業「模擬 ASEM」では、ASEM 各国から参加した150名以上の学生の間での討論に基づき、模擬 ASEM 議長声明をとりまとめ、同声明は第13回 ASEM 外相会合のオープニングにて学生代表から各国外相の前で発表された。</li> <li>各事業については、年次報告書の形で各国に配布されるほか、ホームページや SNS 等で広く一般に向けて発信している。</li> <li>2017年に日本が任意拠出金でイヤマークした事業である模擬 ASEM に関して、スイス外務省、DiploFoundation がパートナーとなったほか、International Association for Political Science Students (IAPSS), Erasmus Student Network (ESN), European Students Union (ESU), European Students' Forum の協賛を得て、これらの諸機関から事業内容について適宜、アドバイスを受け、若者が国際関係・外交分野で経験を積むために適切なプログラムを組むことができた。また、成果についてはこれらの機関に共有されている。</li> <li>模擬 ASEM について、ASEF に対し、日本から関係機関とよく協力するよう助言した。</li> </ul>						
2 組織・財 政マネジメ ント	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部監査 対象年度：2017年、実施主体：RSM テオリム会計事務所、報告・提出月：2017年12月(財政監査委員会を通じて理事会に報告)、結果及び対応：特段の指摘事項なし</li> <li>内部監査 対象年度：2017年、報告・提出月：2017年12月(財政監査委員会の審議結果を理事会に報告)、結果及び対応：特段の指摘事項なし</li> <li>財政状況の報告 報告・提出月：2017年12月(2017年)</li> <li>執行済みの予算については、外部監査機関からの報告を ASEF 財政監査委員会及び ASEF の財務部で精査し、53名のメンバー国理事からなる理事会に報告され、理事会が評価・承認する手続となっている。予算の執行結果については、対外公表されている。</li> <li>ASEF 職員数が2017年4月から9月にかけて離職等により42名から35名に減少し、ASEF の機能が低下するおそれがあったため、日本の塩尻理事から理事会等において事務局に適切な処置をとるよう求めた。その結果、ASEF の財政的規律とも両立する範囲で職員の待遇見直しが実施された。</li> </ul>						
3 日本の外 交課題遂行 における有 用性・重要 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ASEM 首脳会合や閣僚級会合における日本の影響力・発言力を維持・強化するため、さらには、日本の関心事項に関するアジア・欧州間の協力・連携を推進するために拠出は必要不可欠。ASEF の活動指針を定めたダブリン原則によれば、ASEF は「ASEM 首脳又は閣僚」の「今後の会合によって指示されるプロジェクトを実施する」ことになっており、事務局をもたない ASEM にとって唯一の実働機関である。模擬 ASEM については、2016年の第11回 ASEM 首脳会合議長声明に、「この会合を定期的に継続していく」という記述が盛り込まれたように首脳間でも重要視されていたプロジェクトであった。このプロジェクトを日本がサポートする形で実現させ、議長声明の宣言を履行させたことは、日本の ASEM プロセスへの目に見える貢献となった。</li> <li>日本からの任意拠出金は、ASEF 事業のうち日本の政策に合致するもの(1事業)にイヤマークすることとしており、日本の拠出金額が同事業の実施経費全体に占める割合は、5～10%前後である。ASEF 事業は、各国からの拠出金及び市民社会のスポンサー資金との折半で成り立っているという事情があるが、ASEF 事業の広報媒体において、他</li> </ul>						

	<p>の大口スポンサーと並んで同じ大きさのロゴが掲載されるなど、日本の貢献を発信する上で、費用対効果は相対的に高くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年に日本が任意拠出金でイヤマークした事業「模擬 ASEM」では、模擬 ASEM 議長声明に持続可能な開発、平和、人権などが盛り込まれ、全体として日本が重視する基本的な価値を反映したものとなった。</li> <li>・ASEF における理事会（2年に3回）及び執行委員会（半年に1回）に日本理事を派遣している。</li> <li>・現職の日本理事は、2016年6月、義務的拠出金への継続的貢献を背景に、ASEF 活動の方向性の決定に深く関わる ASEF 執行委員会（執行委員会は、ASEF 事務局長、同次長並びにアジア地域及び欧州地域からそれぞれ6名ずつの計14名からなり、ASEF の活動や財政状況等を事前に審査し、理事会に報告する権限を有する。理事会は、執行委員会からの報告を追認する傾向にあることから、執行委員会が ASEF の活動の方向性を実質的に決定づけているといえる。）のメンバーに選出され、ASEF 運営に深く関わっている（執行委員には通常、在職年数が長い古参の理事（理事会メンバー）が就任するが、理事就任直後に執行委員に任命されるのは極めて稀。なお、理事の任期は3年。執行委員は理事としての任期が延長される限り、その職に留まることができる。）。</li> <li>・事業の企画・運営を中立的な立場から行い、アジア・欧州両地域を活動範囲とする ASEF を通じて事業を実施することにより、日本が単独で事業を実施するよりも、アジア・欧州両地域からの集客、スピーカーの確保及び成果の発信等に関し、費用対効果が高いと考えられる。</li> <li>・外務省アジア欧州協力室長や担当レベルで、ASEF の事務局長や部長らと各種機会を通じ対話を行っている。</li> <li>・ASEF 事業には日本企業や NGO なども参加している。2017年11月に実施された模擬 ASEM には日本からも学生代表団が参加。</li> </ul>						
4 日本人職員・ポストの状況等	加盟国等の数	全職員数 (専門職以上。以下同じ。) (2017年9月末時点)	うち、 日本人職員数	うち、 日本人幹部職員数	日本人職員の比率 (2017年9月末時点)	日本人職員数 (前年同時期)	日本人幹部職員数 (前年同時期)
	53	35	1	0	2.9%	1	0
	<p>その他特記事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記日本人職員は、担当の幹部のポストが空席であるため、同幹部が行う業務を実態上行っている。</li> <li>・51か国・2機関の ASEM 参加国に対し、職員数は35名（2017年9月30日現在）となっており（記録の残っている2009年以降、職員数が47名を超えたことはない）、全てのメンバー国が1名以上の職員を確保できているわけではないのが現状。</li> <li>・なお、ASEF への日本の出資比率0.45%（2017年度日本の任意拠出金20,253/全メンバー国任意拠出金合計4,511,613（いずれもシンガポールドル））に対し、日本人職員比率は、2.9%（1/35（人））となっている。</li> <li>・各種機会を捉え、ASEF 側に働きかけを行ってきており、その結果、日本人職員の安定したポスト維持につながっている。</li> </ul>						
5 PDCA サイクルの確保等	PLAN	ASEF の事務局が次年度予算案を策定。執行委員会での議論を経て理事会にて予算案の承認。日本の外交政策に照らし、拠出対象案件の選定。					
	DO	日本の任意拠出金支払。ASEF による予算執行。外務省アジア欧州協力室による ASEF の運営・活動のモニタリング。					
	CHECK	外部監査、内部監査等による運営活動の成果の評価、及び日本の任意拠出金に関する監査実施。					
	ACT	必要に応じ、理事会、執行委員会及び事務局への連絡を通じて、運営における要改善事項又は内容説明を申入れ。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の任意拠出金は、各国からの拠出金と一括して財政管理されているため、特定することはできない。</li> </ul>						
担当課室名	アジア欧州協力室						